



こんなこともやっています!

当院理学療法士の 高校野球への関わり

今回は、理学療法士の甲賀さんにお話を伺いました。



理学療法士は、身体的な障害に対し、運動療法や物理療法的手段を用いて、患者様の社会復帰のお手伝いをさせていただいている仕事です。私たちは、病院内での通常の業務以外にも、高校野球の選手たちへのメディカル(医療)サポート活動へも参加しています。今回は、その活動内容を紹介します。

高校野球メディカルサポートとは

過 去、甲子園を目指す高校生・中学生さらには小学生が、トレーニング法の過用・誤用により肩や肘をはじめとするスポーツ障害により、野球選手としての優れた資質を失う例が頻発しました。

から、日本高野連の正式な医務スタッフとして、球場内の大会本部に待機するようになりました

活 動内容は、大会前の投手の肩と肘の検診業務、試合前のテーピング、試合中の救急処置、試合後のアイシング・クールダウンです。

甲

子園大会の主催者である、財団法人日本高等学校野球連盟(日本高野連)は、その対応策として1993年に日本高野連と医師との相互協力のもと、甲子園において、投手の肩と肘の検診を開始しました。それがメディカルサポートの始まりとなります。

理

学療法士は、1995年春の選手権大会

